


 ざいそう

私の人生時計

水野雄介



私に寝ている暇など残されていない。家では嫁や孫が、会社では仕事、15年後には3度目のホールインワンとエイジシュートが待構えている“夢のまた夢”それとも“正夢”なのか。今私は人生の19番ホールに挑んでいる。現在の時刻は18時40分、“私の人生時計”残された時間は5時間と20分、その僅かな時間、ゴルフは勿論、仕事も家庭も、楽しく素晴らしい、悔いのない人生に仕上げたいと願っている。

「人生80年を一日に圧縮し、振り返ってみた」

私は、一日の始まる午前0時、韓国忠州道で生れた。0時46分広島と長崎に原爆が投下され終戦、両親と共に広島に引き上げて来た。午前1時51分小学校に入学、5時42分油谷重工とポクレン社が技術提携、油圧式万能掘削機を開発、三輪タイプの赤い油圧ショベルが日本で初めて国産化された。その2年前油谷重工に入社し40数年間ショベル作りに携わった私は、油圧ショベルの発展と共に歩んで来たと自負している。6時45分東京オリンピックが華やかに開催され、アポロが月面着陸した少し前、午前8時、愛妻と結婚、8時半に長男が9時すぎには長女が誕生した。午前9時30分、ポクレンとの合弁会社の群馬工場に転勤、群馬県太田市に移り住むことになる。群馬での4年間の体験は、その後の人生にとって大きな礎となった。

赤ヘル軍団、広島カープが初優勝した少し前、32才の時、地元採用の方から、ゴルフは何と言っても昼飯の時のビールが旨いと誘われ、利根川の上武ゴルフ場で初めてのラウンド、その後30年間ビールの旨さに負けゴルフを続けている。会社は石油ショックが尾を引き、群馬工場を閉鎖して広島に集約する事になる。地元採用の仲間達や学校廻りをして入社させた若者達の合理化は、身を切られるよりも辛い事であった。工場閉鎖の残務整理を終え午前10時30分広島に帰任。正午前、油谷重工は神戸製鋼所傘下に参入、17年後現在のコベルコ建機として分社独立した。

午後14時、偶然にもホールインワンを達成、キャディに抱きつき興奮覚えやまない中その後のプレーは当然の如く大崩れであった。その頃世界ではベルリンの壁が崩壊、日本では昭和天皇が崩御されている。数分後、自己最高スコア71を記録する。ゴルフは力

と技だけの勝負ではない、技術以上にメンタルがものを云う心の格闘技である。また人間性が表に出るスポーツであると云われている。私のゴルフは“我慢と集中力”である。苦しい状況でも気力を失わず、自分自身との戦いに挑み、粘り強く克服する。“やるべき事は全てやり尽くし、天命を待つ”。仕事もゴルフも同じだと思うが、目標と過程が重要であり結果は後から付いてくるものだと思っている。

阪神淡路大震災の1年半後、午後16時ころ所属クラブのキャプテン杯に出場、予選を一位で通過。その後居並ぶ強豪達と4ラウンドのマッチプレー、“我慢と集中力”。一打一打が自分との戦いで、まさに死闘の二日間であった。運良く勝ち進み、クラブ三大競技優勝と云う勲章を手にした。その直後取締役を拝命、初孫の誕生と二重三重の喜びを味わった。その後念願のシングルハンディの認定を受け、仲間が祝福してくれたパーティーに妻も出席、それが切っ掛けでサイパンのコーラルオーシャンゴルフ場で初めてのラウンド、現在は妻も同じクラブに入会、妻と子供達、家族でゴルフを楽しんでいる。午後18時還暦を迎え定年退職、コベルコ建機エンジニアリング社長に就任した。その年、HC7の認定を受けた、60過ぎてハンディキャップがアップ出来るとは私自身大変驚いた。人は気持の持ち方ひとつで、老いもするし、若さをたもち続けることも出来る、そこに進歩向上があるのだろう。

18時30分、残された人生の終局に夢を持ち続け、将来の目標となる二度目のホールインワンを記録した。人生は山あり谷ありと言われるが、決して愉快な事ばかりではない。どんな悪い状況に置かれても、気力を失わず、高めていく努力があれば一歩でも二歩でも目標に近づくことになる、これが挑戦なのだろう。

“私の人生時計”残された時間は僅か5時間20分。80歳を迎える午前0時まで、元気で楽しいゴルフを続けることが出来たら、三度目のホールインワンとエイジシュートが決まり、私のゴールなのだ。

そう夢見て挑戦を続けている、老人暴走族であります。